

疾患名：摂食障害

1. 日本における有病率、成人期以降の患者数（推計）
 - 年間有病率人口神経性やせ症 10 万対 10.1(約 12500 人)
 - 神経性過食症 10 万対 5.1(約 6500 人)
2. 小児期の主な臨床症状・治療と生活上の障害
 - 拒食、体重減少、不登校、無月経、強迫、こだわり
3. 成人期の主な臨床症状・治療と生活上の障害
 - 卵巣機能不全、成長障害、骨粗しょう症、問題行動、過食、嘔吐、るいそう、社会適応できない
4. 経過と予後
 - 神経性やせ症は 7～8 割は改善、神経性過食症は 8～9 割は改善、死亡率は 5%程度
5. 成人期の診療にかかわる（べき）診療科
 - 心療内科、精神科
6. 成人期に達した患者の診療の理想
 - a. 成人診療科（診療科名：精神科・心療内科）に全面的に移行
7. 現実には、成人期に達した当該疾患を有する患者を主にどのような形で診療していますか。
 - a. 成人診療科（診療科名：心療内科・精神科）に全面的に移行
 - b. 小児科と成人診療科の併診
 - c. 小児科で診療を続けながら医師・患者の関係を変えてゆく
11. 本疾患の移行に関するガイドブック等について
 - d. 編纂の予定はない